

生と死をつなぐケア

老いとぼけに関わるヒトの世界は、真面目で滑稽な出来事であふれています。そこから創られる介護に希望はあると思います。27年目を迎え、ふたつの宅老所とひとつの特養を運営する「よりあい」の現状とこれからを、たっぷりご報告します。

2019年
日時:6月13日(木)

**福岡
会場**

会場:福岡県教育会館

(第3会議室)

(福岡県福岡市東区馬出4-12-12)

☆地下鉄貝塚線「箱崎宮前」駅下車、1番出口より徒歩1分

2019年
日時:6月14日(金)

**長崎
会場**

会場:長崎勤労福祉会館

(第3中会議室)

(長崎県長崎市桜町9-6)

☆JR「長崎」駅より徒歩15分、市電・蛍茶屋行き
「市公会堂」下車徒歩3分

【講師】

(むらせ たかお)

村瀬 孝生



特別養護老人ホーム「よりあいの森」施設長。

1964年、福岡県飯塚市生まれ。東北福祉大学を業後、特別養護老人ホームに生活指導員として勤務。1996年から、「第2宅老所よりあい」所長を務める。2015年4月より現職。著書に『ぼけてもいいよ』(西日本新聞社)『看取りケアの作法』(雲母書房)など多数。

【受講料:7,000円】

*受講料は当日会場で承ります。

10:30~16:00

プログラム
(昼食・休憩あり)

生活を共に創る — 主体を大切にするケア

キーワードは「わたしとあなた」、「生身の主体」、「わからない」、「合意」、「自由」。今日の私は、昨日の私と同じではありません。プランと標準化された介護は、お年寄りと介護者を過去に縛り付けてしまいます。介護される側もする側もイキイキしたい。お年寄りと一緒に今日を創りましょう。

作業からの脱皮 — ひとりに添うケア、集いを楽しむケア

スタッフの中心的な仕事は、お年寄りのそばに一緒にいること。一緒に美味しいお茶を飲み、一緒に食べる時間を楽しむこと。集いによる「場の力」は個別ケアを豊かにします。介護を作業にしないために大切なことは、現場裁量とスタッフの柔軟なチームプレーです。

介護を地域に還す — ひとりを支援するケア

とにかく施設に鍵をかけません。行動を抑制するために薬漬けにすることもしません。そのためには、施設から外に出て歩くお年寄りの見守りを、地域住民のひとりひとりをお願いします。その積み上げが地域ケアを創る可能性を持っています。さらに、地域ケアは労いを生むのです。

看取りケアの作法 — 暮らしの中にある死

看取りは、あくまで暮らしの延長線上にあります。スタッフは合宿しながら、その臨終を家族と共有してきました。日頃から五感をフルに活用して「体を触る介護」は、寿ぎのある死に着地します。医療からもっとも遠い場所でこそ、人間的な看取りが可能となるのです。

*受講票はお送りしません。満員でお断りする場合はみ一週間以内にご連絡さし上げます。

主催

なるほどケア塾

〒189-0011

東京都東村山市恩多町3-39-13-101 榎円窓社内

お問い合わせ

☎042-306-3771

**長崎
会場**

共催

LIFE・DESIGN 株式会社

長崎県長崎市古賀町993-3

TEL.095-832-0001 FAX.095-832-0007

Fax: 042-306-3772

お申し込みはこちらへ Fax
<参加人数>

<参加者名>

*施設の場合は施設名もご記入ください。

<住所>〒

(自宅・職場)

<TEL>

<FAX>

6/13(木)福岡

()名

6/14(金)長崎

()名